

第7回 記者懇談会実施要項

- 1 開催日時 平成9年5月20日(火)
午後3時から
- 2 場 所 100周年記念会館第2会議室
- 3 懇談内容
 - (1) 若手研究者の研究テーマとその成果の中間発表(15時~15時30分)
法学部教授 園田 寿
研究テーマ「インターネットと
わいせつ情報」
社会学部助教授 関口理久子
研究テーマ「記憶と海馬」
 - (2) 学内情報(15時30分~16時)
 - (3) 情報交換(16時~16時30分)
- 4 関西大学の出席者
石川 啓 学長
月岡 利男 広報委員長
鈴木 俊光 教学部長代理
園田 寿 法学部教授
関口理久子 社会学部助教授
岩村 護 企画室長
荒木 紀忠 広報課長
- 5 配布資料
 - ① 記者懇談会実施要項
 - ② 園田 寿教授の発表資料
 - ③ 関口理久子助教授の発表資料
 - ④ 1998年度入学試験概要
 - ⑤ 平成9年度科学研究費補助金採択状況一覧
 - ⑥ 平成9年度関西大学重点領域研究助成採択状況一覧
 - ⑦ 関西大学図書館所蔵「大坂の書と画と本」展示会の案内
 - ⑧ 関西大学オープンキャンパスの案内(高槻キャンパス)
 - ⑨ 関西大学出版部発行『太宰・漱石・モームの小説』
 - ⑩ 『関西大学通信』第254号
 - ⑪ 『KU SCRAPBOOK Vol.3』

以上

インターネットとわいせつ情報

関西大学法学部
教授 園田 寿

わいせつについて何らかの法規制を行なうことは必要である、と世界中の多くの人は考えている。しかし、わいせつは文化の問題でもあるから、同時代の世代間でも考え方に違いがあるだけではなく、何がわいせつかの判断は、当然、国によってもかなり異なる。地球的規模でコンピュータが接続されたことによって、不特定多数のユーザーが（全世界の）不特定多数のユーザーに向かってさまざまな情報を発信できるようになり、従来のメディアでは入手できなかったような情報が流れ始めた。デジタル化されたわいせつ情報も、国境を越えてネット空間を駆けめぐる（サイバーポルノ）。インターネットを通じてダイレクトにわいせつ情報が流れることによって、わいせつ規制の国家間格差が崩れかかっている。各国で規制基準の異なる情報が、ネットワークを通じて均一化してしまう。それぞれの国の法解釈・文化とインターネットとの確執が生じている。

それが雑誌やフィルム、写真、ビデオといった「物」を媒体として流通するポルノならば、税関で遮断することができる。しかし、インターネット上で小さな「パケット」に微分されて、ランダムにさまざまなルートを単なる電気信号として流れるサイバーポルノは、それを国境で遮断することが技術的に不可能である。どこかの一国でわいせつ情報を遮断できたとしても、インターネットはそれをシステム障害と認識して、そこを迂回して情報を流すだろう。当初、情報資源の共有とシステム全体の安定性を図るために、部分的な核攻撃にも耐えうるようにと考えられたインターネット。「情報鎖国」とでもしない限り、国境を越えて自由に流通する情報の流れを、国内で法的にコントロールしようとするのは、はたして可能なのであろうか。わいせつ情報について何らかの規制が必要であるとの意見は強い。しかし、われわれの社会は、基本的に自由な情報の流れを前提としている社会である。どのような規制がもっとも妥当なのか、今はだれも自信をもって答えられる状況ではない。

わいせつは、常に新しいメディアを探し、機敏に乗り換えていく。フィルムや録音、ビデオやCD-ROM、ダイヤルQ2 など、新しいメディアが誕生するたびに、いち早くわいせつはメディアを取り替えて登場する。そのたびに刑法 175 条の適用が議論されてきた。ところが、サイバーポルノは、わいせつの問題性を一挙に先鋭化させてしまった。情報と媒体は時に混同されるが、区別しなければならない。物に依存しない情報の記録・伝達を可能としたインターネットでは、わいせつ「情報」そのものがダイレクトに流通する。刑法 175 条は風俗犯の取締りを目的としたものであるが、基本的に「物」に対する規制の体系である。刑法は、物と一体になったわいせつ情報の「陳列や頒布、販売、販売目的所持」を処罰してきた。そもそもサイバーポルノが刑法 175 条における「わいせつな文書、図画その他の物」にあたるかは、必ずしも自明のことではないのである。

コンピュータ・ネットワークを通じて地球的規模において情報が流通するということは、異なった地域、異なった文化、異なった習慣、異なった思想といった異文化間において、共通の判断基準をいかにして確立するのかという問題である。従来の国内法の枠組みにとどまり、サイバーポルノを刑罰で規制しようとする態度は、コンピュータ・ネットワークの発展を無視したものとなるおそれがある。コンピュータと通信の技術が飛躍的に発達した現在、そもそもわいせつ情報の流れを法的に規制することが可能なかどうか、他の有効な方法はないのかといった、原理的な問題を議論する必要性が感じられる。わいせつの刑罰的規制の是非についての議論は、メディアが変貌した現在、新たな局面を迎えているのである。



そのだ ひろし
園田 寿

教授

1975年関西大学法学部卒業。81年大学院博士課程を修了と同時に本学専任講師に就任、84年に助教授、91年教授に昇任。

研究テーマは「共犯論」。これで、植田名誉教授、中名誉教授以来、3代にわたる「関大共犯論」の衣鉢がつかれることになる。もっとも、「衣鉢をつぐとは師説を祖述することではなく、師説をも超克・抹殺する批判精神を継承することである」とは中教授の弁。

重厚な人柄で惻隱の情も深く、この人と同席しているとなんとなく落ち着くというのが友人たちの感想である。高校時代に剣道をよくし、2段。また囲碁もたしなまれるというから、森井教授と法学部の本因坊を争うことになるかもしれない。そのさい、剣の道は野戦・城攻めにも通じるというから、森井教授もゆめゆめ油断はならない。山中教授と共に関大刑法学を背負って立たれ、学界でも大いに期待されている。

E-mail address MHH01002@niftyserve.or.jp

I. 人間の記憶障害と海馬

(1) H.M.の症例報告

- ①重篤な癲癇発作の治療のために海馬、扁桃核及び側頭葉内側部の皮質領域を広くにわたり切除手術したが、記憶障害をもたらしたのは海馬の両側性の切除によると考えた (Scoville & Milner, 1957; Milner, 1972)。
- ②重篤な前向き健忘 (anterograde amnesia) があり、知的障害 (IQは維持)・知覚障害や術前に習得していた技能や知識の喪失はなし。

(2) その後の研究

①R.B.の症例報告

虚血による海馬 (CA1領域のみ) に限局した損傷によっても重篤な記憶障害が生じたことの報告 (Zola-Morgan, Squire, & Amaral, 1986)。

②MRI (磁気共鳴画像) による研究

記憶障害を持つ患者4人をMRIを用いて調べた研究 (Squire, Amaral, & Press, 1990) は、海馬領域が健常者の57%に萎縮していたことを報告。

(3) 重要な点とは?

- ①脳のある特定部位 (海馬) がその他の部位よりも記憶機能について重要な役割を果たし、長期記憶への固定過程の神経学的基盤となっている。→ 動物における海馬機能の研究へ発展
- ②記憶における意識性と無意識性の問題が取りあげられた。→ 認知心理学における潜在記憶の研究へ発展

II. 動物における海馬機能に関する研究

(1) 認知地図 (Cognitive map)

- ①空間環境内を探索することにより認知地図を形成しそれを保持する機能が海馬にある (O'Keefe & Nadel, 1978)。
- ②海馬の神経発達が成熟する時期になるまで空間探索行動は発現しない (関口, 1996)。

(2) 作業記憶 (Working memory)

- ①作業記憶とは、ある事象がいつ生じたかという時間的な文脈のなかでおぼえる記憶であり、個別の状況に対処するためにリセットできる記憶 (Olton, Becker, & Handelmann, 1979, 1980)。
- ②海馬は空間的な情報の処理だけでなく時間的な順序についての情報の処理も行っている (Hirano, Yamaguchi & Sekiguchi, 1988, Sekiguchi, 1990)。

(3) 長期増強 (Long-term potentiation: LTP)

- ①海馬においてみられる長期間 (数時間から3日間ほど) 持続するシナプスの伝達効率の増強という現象は、『記憶する』ことに関連するのでは?
- ②長期増強の誘発を阻害する薬物による記憶課題の学習障害 (Morris, 1989) や物体認知および空間認知課題の障害 (関口, 1997)



せきぐち りくこ
関口理久子
助教授

琵琶湖のほとり、滋賀県大津市の生まれ、1985年奈良女子大学文学部教育学科心理学専攻を卒業。卒論では、発達心理学を専攻し、こどもの知覚発達を研究したが、以前から興味があった生理心理学を勉強したくて、86年に京都大学の大学院に入学。以後、大学院修了まで、認知行動と脳の関係、特に海馬という脳の部位の記憶機能について実験心理学的手法を用いて研究された。

本学へは、91年より非常勤講師として応用心理学実習、実験心理学などを担当していたが、96年に専任として着任した。専門は、記憶の生理心理学的研究だが、最近では、聴覚性言語の記憶や記憶の障害についてを研究課題としている。

趣味は、映画鑑賞で、学生時代には自主映画で怪演(?)したこともある。大の犬好きでもある。